

## 「第2回活力ある経済社会を目指す検討小委員会」における主な意見

### 1. ゲストスピーカーからの提言

#### 活力ある経済社会を目指す九州圏がやるべきこと

- ・東アジア圏の経済成長、アジアとの結びつきを活かした産業を振興する視点から、アジアに対する戦略的製造業基地、物的・人的交流基地としての九州圏の役割が重要になるのではないかと。
- ・九州圏における北部と南部、東九州と西九州の分断や格差是正のためには、圏域内の連携・ネットワークづくりが重要ではないかと。
- ・学術研究の集積とアジアとの交流の面では、バイオや環境、IT等の成長分野について九州が独自にアジアとの交流を進めていくことが課題ではないかと。
- ・国内・圏域内向け産業の活性化では、医療・福祉関係の地場産業化を図り、雇用の吸収力を高めることが重要ではないかと。また、環境と農業を結びつけることで九州特有の新たな産業が生み出せるのではないかと。
- ・九州らしさを発揮する戦略として、高付加価値農業化を目指すファームランド、安心・安全な食の提供を目指すフードランド、豊富な地域資源を活かした観光基地化を目指す観光ランドの3つが考えられ、九州が競争力を有するためには地域ブランドの確立が重要ではないかと。

### 2. 活力ある経済社会に関する方向性等について

#### 論点1) 産業集積を活かした新たな産業展望

- ・自動車の設備投資を楽観視し、「アジアのマザー工場としての九州」と言えるか、九州が自動車産業のグローバル戦略で重要な位置付けを持っていると考えてよいか。
- ・九州企業の海外進出件数に比べ、外資系企業の九州への投資が量的に少なく、また、日本全体で見ると微々たる量であるから、量的な比較でなく、九州からアジアに進出した企業がもたらす効果、外資系企業の受け入れにより九州にもたらされる効果を分析することが重要ではないかと。
- ・生産拠点を九州に残した事例から、企業進出の考え方を整理してはどうか。より高度な生産技術が必要となれば、研究的な要素や教育的要素は日本に残すのではと考えられ、その場合、九州はアジアとの関係で立地条件が整っているという整理ができるのではないかと。
- ・自動車産業と半導体クラスターの連携・融合といった新たな視点が必要ではないかと。
- ・自動車産業、半導体産業の技術・ノウハウを環境問題解決型の産業振興において活かせるのではないかと。また、アジア諸国との連携による産業領域の拡大が可能ではないかと。
- ・安全安心や環境に関する課題を取り入れた産業振興という視点は、九州の売りになる面を強調でき、かなり面白いまとめに繋がるのではないかと。

#### 論点 2 ) 新産業を核とした産業振興

- ・新産業について、「情報産業」の論点が弱い。物流に比べ、情報は時間や場所の制約が小さく、情報をソフト面から取り上げないと新産業が見えてこない。輸出農水産品では産業の柱とはなり得ず、トレーサビリティや医療との連携などの観点から、産業と情報をいかに結びつけるか、情報をソフト面で重視することが必要ではないか。
- ・情報について、R & Dや大学の機能も含めて、頭脳部分をどこまで強化するかという論点が必要ではないか。
- ・静脈物流においては情報データベースが整備されておらず、効率的な物流のためには情報ネットワーク整備が重要である。情報が、動脈と静脈をうまく結びつけて、新しい産業につなげていくことになるのではないか。
- ・次世代産業で注目すべきはバイオクラスターであり、ニューバイオだけでなく、発酵・醸造技術といったオールドバイオを活用したフードビジネス・アグリビジネスを前面に出してはどうか。

#### 論点 8 ) 農林水産業等の地域を支える産業の振興と安定的発展

- ・自動車産業も重要だが、テクノポリス以降、地域の産業政策において、大手のメーカーが誘致され、その下請け等として育ってきた中核企業についても議論すべきではないか。
- ・建設産業の構造転換について、厳しいという課題の指摘だけでなく、今後の方向性を示すべきではないか。
- ・漁業、農業の面で、九州における環境技術の蓄積をアジア共通課題で活かすことがビジネスチャンスにつながるのではないか。
- ・地場産業については、衰退していても技術は活用できるという視点が大切ではないか。
- ・農業よりも、むしろ、上海・北京・広州の富裕層をターゲットにした水産業の販路拡大の可能性が高いのではないか。

以上